

# 令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

## 中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

### 活動テーマ

『地域洗剤「石垣島、海と山を巡る洗剤」の普及を通して、八重山諸島全域で環境意識を高め、ローカルSDGs事業の創出に繋げる』

活動団体の活動地域：沖縄県石垣市

活動団体名：lagom（ラーゴム）

中間支援主体名：コラコラ（coralcollabo）

# 中間支援主体としての獲得目標と達成状況

## ■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

活動団体が明確なビジョンを描けるようサポートできるようになりたい。

ビジョンの実現のためには他者との協力が必要不可欠なので、人間関係の構築や他者とのニーズのすり合わせをスムーズに行えるようサポートし、協働を実現できる存在に成長したい。

## ■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

「環境に優しい島洗剤を製造して広める」ことをアピールしたら、色々な団体が一緒に何かやりましょうと声をかけてくれて、実際にイベントを開催したり、フォーラムに登壇させてもらったりできたので、活動団体も、こういうことができるというイメージができたと思います。

支援としては、顔合わせの日程や場所の調整をしたり、イベントの準備を一緒にしたり、宿の予約をしたり、裏方のことをしていただけですが、一緒に行動する中で、コラコラのことをその場の人たちに知ってもらう時間をもらえて、lagomと集うと憩う、コラコラ、一緒に色々やってくれた方たち、イベント当日参加者の方たち、みんなにとって良いことしかなかったと感じています。

今年度は、先方から協働の声をかけてくれたので本当に良かったです。来年度からも、声をかけてもらえるような存在でいたいし、自分たちから一緒にやろうとお誘いしていきたいです。

# 中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する				
	意味づける	○	なぜ、洗剤を通して仲間作りなのか経験を通して理解し、貢献感を感じられる。	◎	洗剤を通しての繋がりを作ることは、関係者がお互いに具体的な役割が明確で、アクションにしやすいと実感。
	癒しとなる				
	見通しをつける				
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	○	協働できる仲間とつながる第一歩の機会を創る。	◎	わくわくサンゴ石垣島や、竹富町財団、コロコロ認証事業者などが、具体的なコラボ企画の声掛けをしてくれるようになって、橋渡しができた。
	喝を入れる				
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる	○	島洗剤と一緒に活動する人をつなぐための中の人を増やす	◎	広報や文章の編集、人をつなぐ能力のある人が仲間になった。
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する				
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる				
	会議を進行する	○	活動団体がスムーズに活動を進められるように、会議の段取りや進行を行う。	○	形としては実行しているが、ファシリテーションスキルがもっと欲しい。
	落としどころを探る				
その他	※必要に応じて追加				

# 今後の中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

団体として目指す「島の自然の回復と生活スタイルの転換、それによる自然と人との調和」の実現のため、八重山諸島でローカルSDGs事業の基本理念を広げる。地域の主体と繋がり、環境保全と経済活性の両立を軸にしたビジョンを展開することで、協働の輪を広げられると考える。IAGOMが製造・販売を進める地域洗剤は、①生分解性なので海洋汚染を軽減できる。②3割の製造行程を石垣島で行うため洗剤の輸送にかかるCO2排出量削減に貢献する。③グリーンベルトの月桃から作られる精油を香料として利用することで間接的に赤土流出防止に貢献する。という3つの観点から環境保全に貢献する。この事業は、地域で経済が循環するという観点からもローカルSDGs事業のモデルとなるもので、この地域洗剤の普及を通じて構築されるプラットフォームの先には、新たなローカルSDGs事業の創出が容易になると推測される。行政との連携は課題だが（環境保全に携わっているのは移住者が多く、そもそもの繋がりが少ないため信頼関係を築くのに時間がかかる）、本事業を通して行政の方との情報交換を密にし市が描く都市計画の達成に貢献できるということをアピールする。3年後には委託事業を受け、活動団体と共に行政をサポートできるポジションにつきたい。そのポジションにつくことで地元の方からの信頼も得られ、受け入れてもらいやすくなる。地元の方と移住者が、島にやさしい経済を通して混ざり合う地域密着型のプラットフォームを作り、八重山諸島ならではのユニークなローカルSDGs事業（地域資源を活用して環境・社会・経済を統合的に向上する事業）の創出を促すことに貢献していく。

## ■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
個別に会って話をしたり、集まって意見や想いを出し合ったりする機会を、だれもが無理なく作れるようマネジメントができるようになりたい。	気軽に声を掛け合える雰囲気作り。どこから声が上がっても多方向から反応があるようなコミュニティになると、声を上げる気軽さが生まれて更に活発になり、つながりが深くなると思うので、そういう場だとアピールする。	関係者と定期的に情報共有を行う
私たちがやるのではなく、話をする中で主体的にやりたいと言う人たちが出てくるようなコミュニケーションスキル、ファシリテーションスキルを身に付けたい。	その場にいる人たちの本当のニーズを理解し合えたら、主体的に「やりたい」という気持ちで行動できると思うので、常にニーズを意識する練習をする。	事業計画の内容を聞き、ともに考える

## ■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

今年度のわくわくサンゴ石垣島とのコラボイベントで、環境教育のワークショップを楽しくやった後に、参加者に「自分たちができることは」と考えてもらう内容の一部として、洗剤を環境に良いものい切り替えるとか、買い物をする時に、お店や商品を環境保護の視点で選ぶことを提案できた流れが、とても効果的で次世代につながられるものだと感じたので、環境教育の活動をしている人たちと協力してもっと意識の底上げのための活動をしたい。